



埼玉県立大学

研究開発センター年報 Vol.10

【 2025年度 活動実績報告書 】



2025年度 埼玉県立大学研究開発センター活動実績報告書

Saitama Prefectural University Annual Report of the Research and Development Center

目 次

埼玉県立大学の研究に関する方針	1
研究開発センターの活動	
1. 設置目的	3
2. 組織	3
3. 活動実績<総括>	4
4. センター所属教員の研究活動	5
5. 研究力向上のための支援活動	12
6. 教育・研究・地域連携の一体的推進事業	15
7. 埼玉大学との共同研究	16
8. 産学官連携事業	17
【トピックス】	
プロジェクトの活動	
2025年度研究開発センタープロジェクト	20
シンポジウム	
研究開発センターシンポジウム 2025	22

埼玉県立大学の研究に関する方針

埼玉県立大学では、陶冶・進取・創発を基本理念とし、保健・医療・福祉に関する教育研究の中核となって地域社会に貢献することを使命としています。この使命の達成に向け、研究に関する方針を次のとおり定めます。

1. 新たな保健・医療・福祉ニーズへの的確な対応など、地域の諸課題や時代の先端を見据えた実用的かつ実践的な研究に積極的に取り組み、現場の課題を多面的な視点でとらえ、解決策を探求・提案します。
2. 各教員が各々の専門分野における研究（基礎・応用研究など）に積極的に取り組むとともに、文部科学省科学研究費助成金の採択、他機関との連携を視野に入れながら大型研究費の獲得を目指します。
3. 産業界、他大学、行政機関等との連携を充実・強化し共同事業・共同研究を推進します。
4. あらゆる機会を活用して、研究成果を広く国内外に公表します。また研究成果は、学内教員や学生などに公開して共有化を進めることで、学部、大学院の教育研究活動に反映させます。
5. 行政機関や県民の抱える課題解決のための研究を推進するために弾力的な研究実施体制、また、研究者の能力向上に向けた研究支援体制の整備を図ります。

本報告書内の著作物を利用する際は、埼玉県立大学の許可を得ること。

研究開発センターの活動

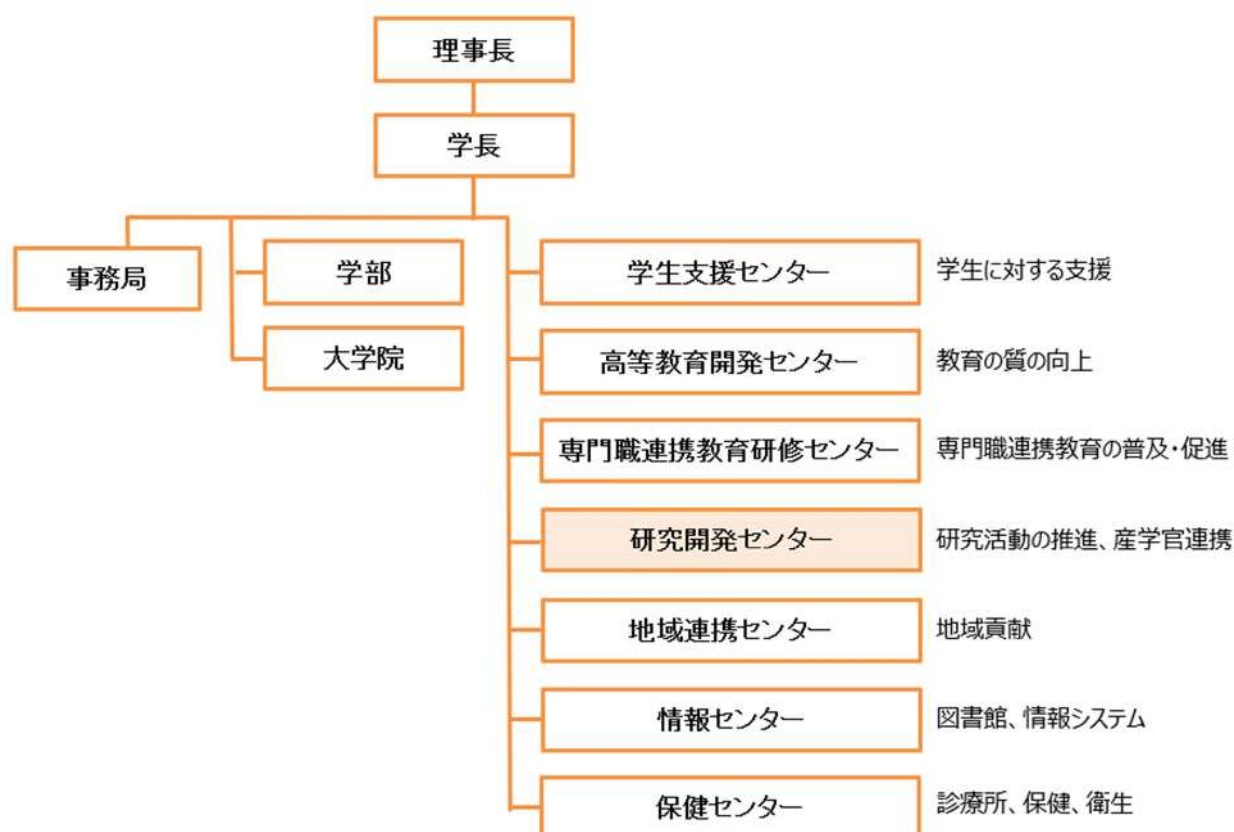
1. 設置目的

本センターは、我が国の保健医療福祉分野の課題に対して、学際的な観点から地域に根差した研究開発を促進する研究拠点として活動するとともに、広く社会に貢献することを目指す。

2. 組織

保健医療福祉に関する教育・研究の中核となって地域社会に貢献するという本学の使命を、効果的・効率的に発揮するためセンター組織が設置されている。本センターは、研究活動を推進するとともに、共同研究や受託研究等へも積極的に取り組むことで、企業等と連携し地域に根差した研究活動を行い、その成果の発信に努める拠点として位置付けられている。

学内組織



3. 活動実績<総括>

1) プロジェクト研究

埼玉県の地域包括ケアシステムの発展・深化及び地域共生社会実現に寄与する地域の諸課題の解決や時代の先端を見据えた実用的・実践的な取り組みとして、継続2件、新規2件の合計4件を実施した。

2) 研究開発センターシンポジウム 2025

「多様な知の交差点ー大学発の研究と地域連携が紡ぐ共生社会の未来ー」をテーマに、本学キャンパスにおいて対面で開催した。保健医療福祉の幅広い分野で地域社会と密接に連携しながら研究を進め、その成果の地域還元に取り組んでいる、学内プロジェクトを中心に講演を実施。一般の方、保健・医療・福祉機関関係者、教育・研究機関等42人が参加した。本学の意義を広く周知する機会とした。

3) 研究力向上のための支援活動

研究力向上に向けた支援活動として、主に以下の活動を実施している。

- ① URA機能の整備
- ② 文部科学省科学研究費の獲得支援
- ③ 研究支援ゼミナール実施
- ④ 研究推進セミナー開催
- ⑤ 大学間共同研究の支援
- ⑥ 大学内研究費の管理
- ⑦ 研究関連事業の募集や採択、研究進捗状況の管理

4) 一体的推進事業

教育・研究・地域連携が一体となった仕組みづくりを目指す事業を学内で公募・助成し、継続1件、新規2件を実施した。

5) 埼玉大学との共同研究

埼玉大学との共同研究として、2022年3月25日締結の「包括連携に関する協定」に基づき、3件の研究課題に取り組んだ。

6) 産学官連携強化に向けた活動

- ① 本学の研究成果を地域社会に還元するため、産業界のニーズとマッチングさせる支援を行い、共同研究29件、受託研究9件が稼働、特許1件を出願した。
- ② 産業界・行政機関・大学等と連携するため、本学の研究シーズの広報活動を行った。

4. センター所属教員の研究活動

◆ 競争的資金等の研究

教授 濱口 豊太			
2025 ～2029 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(B)	研究代表者	消化器心身症者のQOL向上を目指す包括的 eHealth システムの開発 (25K03051)
2024 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	研究分担者	IBS 用 eHealth システムでの学習が食改善を介して症状軽減に及ぼす効果 (23K02924)
2024 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	研究分担者	画像認識による手指運動麻痺に対する反復運動再現性の評価アプリケーションの開発(24K12380)
2024 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	研究分担者	脳卒中片麻痺を回復させるための経頭蓋磁気刺激後に実施される作業療法計画の最適化(24K14384)
2025 ～2027 年度	日本学術振興会科学研究費助成事業	研究分担者	アルコール依存症者の再飲酒リスクを軽減する注意バイアス修正と CBT の集学介入法開発

教授 村井 美代			
2021 ～2025 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)(一般)	研究分担者	埼玉県内の臨床及び下水から分離した ESBL 産生大腸菌の解析 (21K10418)
2025 ～2030 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)(一般)	研究分担者	埼玉県内の下水および臨床由来 CPE の動向調査と薬剤耐性遺伝子伝播の評価 (25K13529)

教授 飯岡 由紀子			
2025 ～2029 年度	文部科学省科学研究費助成事業(科学研究費補助金) 基盤研究(B)	研究代表者	経験学習を導く RPG を活用した看護職の調整力向上教育教材の開発と効果の検証

教授 吉田 俊之			
2024 ～2026 年度	厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業)	研究分担者	障害者自立支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデルの普及促進に資する研究

教授 筒井 孝子			
2022 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	研究分担者	財務状況からみた公的病院の政策医療の今後のあり方(22K01631)
2024 ～2028 年度	文部科学省科学研究費助成事業(科学研究費補助金) 基盤研究(B)	研究代表者	介護現場の安全性向上のためのデータベースの開発と研修カリキュラムに関する研究(24K00341)
2024 ～2028 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)	研究分担者	地域包括ケアシステムにおける日常生活圏域モニタリングシステムの開発(24K05361)

特任助教 久保田 圭祐			
2024 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究	研究代表者	軽度変形性膝関節症者が呈する歩行時の身体重心移動変化に関与する筋同時収縮の解明(24K20501)
2024 ～2026 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(B)	研究分担者	身体運動制御・身体運動学習の協調関係ならびに神経基盤の包括的理解とその応用(24K02840)
2025 ～2027 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(B)	研究分担者	多感覚統合に基づく道具のマニピュレーション(25K01191)

特任助教 松本 優佳			
2025 ～2027 年度	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究	研究代表者	足部変形疾患の骨運動学的リスクファクターの解明と新規足底板療法の検討
2025 ～2027 年度	公益財団法人住友財団 基礎科学研究助成	研究代表者	ヒト足部の骨形態が直立二足歩行中の足部骨運動に与える影響の解明

◆ 自治体/その他

教授 濱口 豊太

- ・東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 非常勤講師
- ・全国リハビリテーション学校協会 理事
- ・日本作業療法研究学会 会長
- ・日本行動医学会 評議員
- ・埼玉県蕨市「蕨市高齢者福祉計画等策定懇談会」 会長
- ・埼玉県蕨市「蕨市介護保険運営協議会」 会長
- ・埼玉県理容美容専門学校 評議員

教授 村井 美代

- ・埼玉大学 外部評価委員
- ・国立感染症研究所 細菌第一部 客員研究員

教授 吉田 俊之

- ・厚生労働省社会保障審議会福祉部会 委員
- ・帝京科学大学医療科学部医療福祉学科 非常勤講師
- ・東京家政大学人文学部教育福祉学科 非常勤講師
- ・一般社団法人日本生活支援工学会 理事
- ・一般社団法人日本生活支援工学会 支援機器人材育成に関する検討委員会 委員長
- ・厚生労働省令和7年度社会福祉推進事業「社会福祉連携推進法人制度の活用の促進等に関する調査研究事業（受託事業者 PwCコンサルティング合同会社）」事業検討委員会 委員
- ・厚生労働省令和7年度障害者総合福祉推進事業「人口減少下における障害福祉サービスの提供体制の在り方に関する調査研究（受託事業者 PwCコンサルティング合同会社）」事業検討委員会 委員
- ・厚生労働省令和7年度在宅医療・介護連携推進支援事業（受託事業者 株式会社日本能率協会総合研究所）連携支援ワーキンググループ 委員
- ・厚生労働省令和7年度障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業（採択事業者 株式会社最中屋）検討委員会 座長
- ・千葉県令和7年度千葉県地域包括ケアシステム構築状況把握・評価事業（受託事業者 株式会社日本能率協会総合研究所）評価指標検討会 委員

教授 筒井 孝子

- ・兵庫県立大学大学院 社会科学研究科 客員教授
- ・兵庫県立大学大学院 社会科学研究科 客員研究員
- ・経済産業省 日本工業標準調査会 委員
- ・東京都 社会福祉審議会 委員
- ・東京都 介護保険制度における人事給与制度の在り方検討会 委員
- ・富山県 富山県社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 委員

- ・埼玉県和光市 ヘルスソーシャルキャピタル審議会 委員
- ・一般社団法人シルバーサービス振興会 介護職員資質向上促進事業「評価方法・講習に関する検討委員会」 委員長
- ・一般社団法人シルバーサービス振興会 介護プロフェッショナルキャリア段位制度「レベル認定委員会」 委員
- ・一般社団法人シルバーサービス振興会 介護プロフェッショナルキャリア段位制度「アセッサー講習会」外部審査員 講習会講師
- ・一般社団法人日本専門医機構 共通講習委員会 編集会議(医療福祉制度) 委員
- ・令和7年度老人保健健康増進等事業「介護職員の技能等に係る評価のあり方に関する調査研究事業」(受託事業者 一般社団法人シルバーサービス振興会)検討委員会 委員
- ・令和7年度老人保健健康増進等事業「介護職員の技能等に係る評価のあり方に関する調査研究事業」(受託事業者 一般社団法人シルバーサービス振興会)介護技能に関する動画検証解析WG 座長
- ・令和7年度老人保健健康増進等事業「効果的な施策を展開するための考え方の点検ツール」を保険者の計画策定プロセスで活用するための支援に関する調査研究」(受託事業者 日本総合研究所)委員会委員
- ・令和7年度老人保健健康増進等事業「自治体伴奏支援における自治体との面談方法の形式知化に向けた調査研究」(受託事業者 日本総合研究所)委員会 委員
- ・厚生労働省委託事業「保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の評価指標と活用方策に関する調査研究」(受託事業者 日本能率協会総合研究所)検証委員会 委員
- ・ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会 介護ICTデータ標準化検討会 委員

◆ 論文ほか

教授 濱口 豊太

(論文)

1. Daigo Sakamoto, Toyohiro Hamaguchi, Yasuhide Nakayama, Masahiro Abo. Reliability and validity of a newly developed Action Research Arm Test for upper limb function assessment in patients with stroke: A comparison with the conventional version. PLOS ONE 21(3) e0334199 2026年3月
2. Shota Tasaka, Yuko Nishiura, Misako Sano, Toyohiro Hamaguchi. Reliability of the Japanese Version of the Kit for Assessment of Time Processing Ability (KaTid)-Child in Typically Developing Children: A Pilot Study. Cureus 17(12) e99921 2025年12月
3. Kakeru Mizumura, Kohei Koizumi, Tsuyoshi Kouda, Tetsuya Okihara, Hajime Maruyama, Hidetoshi Takahashi, Toyohiro Hamaguchi. Inferential Statistics for Electrophysiological Analysis of Paretic Upper Limb-sensory Deficits and Muscle Imbalance in Patients with Acute Stroke: Progress in Rehabilitation Medicine 10 1-15 2025年10月
4. Toru Yasukawa, Yusuke Yamazato, Kaho Tanobe, Minori Machida, Toyohiro Hamaguchi, Jun Tayama. Effect of Stretching on the Electroencephalography of People With Irritable Bowel Syndrome. Cureus 17(9) e92709 2025年9月
5. Takashi Nasu, Keisuke Kubota, Hiroo Furusawa, Takaya Abe, Toyohiro Hamaguchi, Naohiko

Kanemura, Yoshinori Kitabatake, Toshiyuki Yoshida, Takahito Nakamura, Yuji Matsumura. Timed Up and Go (TUG) Predicts Changes in the Kihon Checklist After Six Months of Continuous Participation in "Kayoinoba" (Community Gathering Places). Cureus 10.7759/cureus.83394 2025年5月

6. Shin Suzuki, Ayako Otsuka, Etsuko Kurata, Kimito Mio, Tasuku Inaba, Kentaro Yoshida, Shoji Kinoshita, Toyohiro Hamaguchi, Eun Sangsoo, Masahiro Abo. Sex-Specific Effects of Cumin Supplementation on Body Composition, Lipid Levels, and Glycemic Profiles: A Pilot Study. Cureus 17(4) e82774 2025年4月
7. Kentaro Yoshida, Toyohiro Hamaguchi, Kazuaki Masuda, Eiichi Tsuda, Mikio Hiura, Masahiro Abo. Empowering Physical Functions in Older Women With Sarcopenia Through Aomori Gymnastics: A Prospective, Observational, Nested Case-Control Study in Aomori Prefecture. Cureus 17(3) 1-11 2025年3月
8. 濱口豊太, 昇寛. 馬介在療法の感覚・運動機能への介入効果：発達障害児を対象とした総説. 国際エクササイズサイエンス学会誌 9(1) 29-34 2026年1月
9. 濱口豊太. 腸を感じすぎる脳, 薬を使わないで癒すー心理介入・運動・デジタル技術で取り組む IBS治療. 心理学ワールド 112 22-23 2026年1月
10. 大瀧直人, 濱口豊太, 平原惇気, 小野高誠, 濱田真弓, 小泉童子. 脳卒中後生活期の上肢機能障害に対するNEURO®と装具療法の併用効果ーケーススタディ. 日本スティムレーションセラピー学会誌 16(1) 34-43 2025年4月

(著書)

1. 濱口豊太 (分担). 高次脳機能作業療法学 第3版. 医学書院 2025年12月
2. 濱口豊太 (編著). 作業療法士になるには. ペリかん社 2025年5月

教授 村井 美代

(論文)

1. 村山浩基, 岸井こずゑ, 村井美代. 埼玉県下水道由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析. 臨床検査学教育 18(1) 111-112 2026年

教授 吉田 俊之

(専門誌)

1. 吉田俊之. 介護現場の生産性向上の取組とは. カイゴのチカラ, No. 131, 2024, 6-12.

教授 筒井 孝子

(論文)

1. Kenta Matsumoto, Takako Tsutsui, Ryosuke Hashimoto, Miwa Sakakura, Takahiro Onishi, Mitsuo Akashi. Multimorbidity patterns and prevalence among geriatric patients in Japanese hospital dentistry. BMC Geriatrics. 25, 1, 362, 2025
2. 筒井孝子. 看護必要度データを基軸とした「ケアの連続体」の実現：多職種協働と地域連携強化への貢献. ジェネラリスト教育コンソーシアム. 20, 看護必要度データが変える！多職種協働と地域連携の実践ガイド, 2025 (ISBN 978-4-904865-76-7 C3047)

(著書)

1. 筒井孝子. (担当: 編著者) ジェネラリスト教育コンソーシアム vol.20 看護必要度データが変える! 多職種協働と地域連携の実践ガイド (カイ書林). 20-33, 2025
2. 筒井孝子. 科学的政策立案の羅針儀—行動変容を促す「保険者機能評価」の新たな考え方—. 医療と社会. 医研シンポジウム 2025 講演録, 35, 4, 433-449, 2026

特任助教 久保田 圭祐

(論文)

1. Takashi Nasu, Keisuke Kubota, Hiroo Furusawa, Takaya Abe, Toyohiro Hamaguchi, Naohiko Kanemura, Yoshinori Kitabatake, Toshiyuki Yoshida, Takahito Nakamura, Yuji Matsumura. Timed Up and Go (TUG) Predicts Changes in the Kihon Checklist After Six Months of Continuous Participation in “Kayoinoba” (Community Gathering Places). *Cureus*. 17(5), 2025
2. Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Hirata, Keisuke Kubota, Tsutomu Fujino. Contribution of Tibialis Anterior in Sit-to-Stand Motion: Implications for Its Role in Shifting the Center of Pressure Backward. *Journal of functional morphology and kinesiology* 10(2), 2025
3. Taku Miyazawa, Keisuke Kubota, Hiroki Hanawa, Keisuke Hirata, Tatsuya Endo, Tsutomu Fujino, Katsuya Onitsuka, Moeka Yokoyama, Naohiko Kanemura. Automated Analysis of Ultrasound Images to Measure Muscle-Tendon Junction Excursions by Using the Multiple Feature Point Tracking Algorithm. *Ultrasonic imaging* 47(3-4), 2025
4. Keisuke Kubota, Hiroki Nishihara, Xueke Dang, Motoki Kuroo, Yukiko Mogi, Toshiaki Tsuji. Developing a Myoelectric-Driven Rehabilitation Robot for Acquiring Upper-Limb Muscle-Coordinated Activity Patterns in Patients with Post-Stroke Hemiplegia. *IEEJ Journal of Industry Applications*, 2025
5. Keisuke Hirata, Hiroki Hanawa, Taku Miyazawa, Keisuke Kubota, Moeka Yokoyama, Naohiko Kanemura. Does achieving gait symmetry during split-belt adaptation reflect corticospinal involvement in stroke survivors?. *Journal of neurophysiology*, 2025
6. Taku Miyazawa, Hiroki Hanawa, Keisuke Kubota, Keisuke Hirata, Tsutomu Fujino, Naohiko Kanemura. The medial gastrocnemius fascicle shortening and tendon lengthening in static standing are associated with age-related postural instability in older adults. *Journal of applied physiology*, 2025
7. Keisuke Kubota, Taku Miyazawa, Keisuke Hirata, Naohiko Kanemura. Muscle-Specific Neural Modulation in Biarticular Semitendinosus and Biceps Femoris during Isometric Torque Generation. *Journal of neurophysiology*, 2025
8. Taku Miyazawa, Fumiya Sasaki, Hiroki Hanawa, Keisuke Kubota, Keisuke Hirata, Tsutomu Fujino, Miho Arai, Naohiko Kanemura. Development of an automated method for analyzing muscle dynamics across different morphologies based on B-mode ultrasound images. *Journal of biomechanics*, 2026

特任助教 松本 優佳

(論文)

1. Naomichi Ogihara, Yuka Matsumoto, Hiroyuki Seki, Takeo Nagura, Nobuaki Imanishi, Masahiro Jinzaki, Motoharu Oishi, Hideki Endo, Gen Suwa. Subtalar joint kinematics defined by a rotational axis translating along the posterior talocalcaneal facet. *Scientific Reports*, 15: 32038, 2025
2. Naomichi Ogihara, Hiroyuki Seki, Asahi Sujino, Akimasa Ito, Yuka Matsumoto, Gen Suwa, Takeo Nagura, Yoichi Yokoyama, Minoru Yamada, Yoshitake Yamada, Masahiro Jinzaki. Three-dimensional in vivo kinematics of the subtalar joint during weight-bearing standing on coronal-wedge surfaces using upright computed tomography. *Gait & Posture*, 123: 110021, 2026
3. Kohta Ito, Yuka Matsumoto, Hiroyuki Seki, Takeo Nagura, Naomichi Ogihara. Simulating human foot mechanics during walking based on an anatomically detailed forward dynamic finite element model. *Annals of Biomedical Engineering*, 2026, DOI:10.1007/s10439-026-03984-3 (In press)

5. 研究力向上のための支援活動

研究力向上に向けた支援活動として、主に以下の活動を実施している。

- ・ U R A機能の整備
 - 外部研究費獲得支援のためのコーディネータ委嘱及び申請支援（外部資金獲得支援部門）
 - 大型研究遂行支援のためのコーディネータの配置（大型研究遂行支援部門）
- ・ 文部科学省科学研究費獲得支援
 - 外部講師による科学研究費獲得支援の動画公開
 - 科学研究費助成事業公募の学内説明動画公開
 - 過去に採択された研究計画調書の閲覧制度開始
 - 科学研究費申請関連の書籍の閲覧制度
- ・ 教員や大学院生のための研究活動支援としての研究支援ゼミナール開催
- ・ 教職員や大学院生などを対象とした研修会としての研究推進セミナー開催
- ・ 大学間共同研究の支援マッチングや助成制度の整備
- ・ 奨励研究費の適切な配分
- ・ 研究関連事業の募集や採択、研究進捗状況の管理

◆ U R A機能の整備

研究開発センターでは、研究者の外部資金獲得や大型研究遂行を支援するためにU R A (University Research Administrator) を整備し、研究者の研究活動を支援している。

1) 外部資金獲得支援部門

外部資金獲得支援部門では、プレアワード業務に係るコーディネータを委嘱し、U R Aプレアワード説明会を開催。科学研究費を始めとする外部資金の申請に関する相談や申請書の添削等を行った。(利用人数：延べ26名、相談26件、添削52件)

< U R Aプレアワード業務による支援内容 >

- ・ 科学研究費や大学間共同研究、大型の民間助成金等に関する相談対応、助言
- ・ 上記外部資金等に関する申請資料作成支援
- ・ その他、本学の研究開発に関する助言

U R Aプレアワード説明会の開催

日 時：2025年4月22日（火）10：40～12：10

開催方法：Zoom®によるオンライン開催及びオンデマンド配信

対 象 者：本学教員、本学大学院生

講 師：U R Aプレアワード業務コーディネータ、飯岡 由紀子 教授、久保田 圭祐 特任助教

2) 大型研究遂行支援部門

大型研究遂行支援部門では、ポストアワード業務に係るコーディネータを配置し、データ分析、各種調整、資料作成等、教員が獲得した大型研究の遂行支援を行った。

◆ 科学研究費獲得支援

外部資金獲得支援部門の活動の一環として、外部講師による科学研究費獲得セミナーの動画を公開した。

科学研究費獲得セミナー

テ ー マ：科研費申請書作成に係る着眼点

公 開 日：2025年7月28日（月）

開催方法：オンデマンド配信

対 象 者：本学教員、本学大学院生

講 師：東京家政大学 リハビリテーション学科 米津 亮氏

テ ー マ：本学UR A活用から採択までの体験談

公 開 日：2025年7月28日（月）

開催方法：オンデマンド配信

対 象 者：本学教員、本学大学院生

講 師：埼玉県立大学 健康開発学科 健康情報学専攻 北畠 義典 教授

◆ 研究支援ゼミナール

研究開発センターでは、本学教員や大学院生を対象とした勉強会として、研究支援ゼミナールを毎年度開催している。

今年度のテーマは、「質的データの分析－G T Aを通じた質的研究の理解－」。

量的研究では捉えきれない人の思いや行動の背景を探る「質的研究」について、その基礎から分析の実際までを体系的に学ぶ。

グラウンデッド・セオリー・アプローチ（G T A）を中心に、データの読み解き方や理論化のプロセスを具体的に紹介した。

テ ー マ：質的データの分析－G T Aを通じた質的研究の理解－

公 開 日：2025年10月20日（月）～

開催方法：WebClass によるオンデマンド配信

対 象 者：本学教員、本学大学院生、本学大学院生

講 師：国立看護大学校 教授 森 真喜子氏

◆ 研究推進セミナー

研究開発センターでは、研究活動を促進することを目的に、本学教員や大学院生を対象に、「研究推進セミナー」を毎年度開催している。

今年度のテーマは、「全人的なホスピス緩和ケア支援のあり方 ―ニューヨーク市の在宅医療組織での現場経験より―」。

ニューヨーク訪問看護サービス（Visiting Nurse Service of New York）にて長年にわたり臨床

チャプレンとしてホスピス緩和ケアに従事してきた岡田圭氏を講師にお招きし、オンデマンドにて講演を配信した。

ニューヨークの在宅ホスピスで培われた“全人的ホスピス緩和ケア”を学ぶ特別講義として、患者を「身体・心理・社会・霊性」の4つの側面から支えるケア、多職種チームの協働、そして終末期の不安や痛みに寄り添う実践を、現場の豊富な事例とともにわかりやすく紹介した。

テ ー マ：全人的なホスピス緩和ケア支援のあり方

ーニューヨーク市の在宅医療組織での現場経験よりー

公 開 日：2026年 3月 9日（月）10：00～

開催方法：WebClassによるオンデマンド配信

対 象 者：本学教職員、本学大学院生

講 師：岡田 圭氏（元ニューヨーク訪問看護サービス・ホスピス緩和ケア終末期スピリチュアルケアプログラムマネージャー）

6. 教育・研究・地域連携の一体的推進事業

以下の3点を目標とした「教育・研究・地域連携が一体となった仕組みづくり」を目指す事業を学内で公募・助成し、実施している。こうした事業を通じて、教員と学生がともに取り組む教育活動・地域連携活動を進めている。

「教育・研究・地域連携が一体となった仕組みづくり」の目標

- 1) 教員と学生がともに地域に入り込んだ教育活動・研究活動プロセス自体（対象・内容・成果・実施のための行動等）がその地域における地域連携活動となることができる。
- 2) 学生も教員とともに研究活動に主体的または補助的に携わることで、その研究活動が地域社会への貢献に直結しているという意識を学生自ら育むことができる。
- 3) 学生と教員が一緒に取り組む地域連携の活動地域をアクティブラーニング（課題発見・整理・対策案等の学習・研究）の場とすることができる。

◆ 2025年度の実績

研究代表者	研究課題名
作業療法学科 准教授 上原 栄一郎	埼玉県立大学におけるアントレプレナーシップマインド醸成に向けたプロジェクト
共通教育科 教授 上原 美子	未来ある子どもたちの心身の健康づくりを支える地域連携プロジェクト
共通教育科 教授 浅川 泰宏	民俗学「七夕ウィーク！」の地域連携展示：学生製作の七夕飾りによる地域社会の非日常的な景観の創出

7. 埼玉大学との共同研究

埼玉大学と本学は、2022年3月25日に締結した「包括連携に関する協定」を踏まえ、同日付で「包括連携協定に基づく共同研究に関する覚書」を取り交わした。本覚書に基づき、大学間の共同研究を通じて、学術研究の発展及び社会貢献等の推進に資することを旨し、共同研究を実施している。

◆ 2025 年度の実績

2025 年度の共同研究の募集に当たり、学内研究者を対象に埼玉大学との合同説明会を実施した。また、共同研究を推進するために、研究者間のマッチング支援や研究支援助成を行い、3 件の課題に取り組んだ。

共同研究 1

研究課題	変形性関節症の病態解明に基づく“レジリエント軟骨細胞”の創出
本学研究者	理学療法学科 准教授 村田 健児
埼玉大学研究者	理工学研究科 准教授 乙須 拓洋

共同研究 2

研究課題	マスクを用いた呼吸計測手法の開発とスポーツトレーニング・呼吸リハビリテーションへの応用
本学研究者	保健医療福祉学研究科 准教授 木戸 聡史
埼玉大学研究者	理工学研究科 教授 小林 貴訓

共同研究 3

研究課題	マイオカインに着目した運動による軟骨変性抑制効果のメカニズム解明
本学研究者	保健医療福祉学研究科 教授 金村 尚彦
埼玉大学研究者	理工学研究科 准教授 高橋 朋子

8. 産学官連携事業

本センターでは、2024 年度から産学官連携事業として主に以下の活動を実施している。

- ・ 本学と企業等の研究者が共同で研究に取り組む共同研究
- ・ 企業等から依頼された特定のテーマについて本学の教員が研究する受託研究
- ・ 産学連携イベントへの参加

◆ 共同研究 計 29 件（新規契約 13 件、継続 16 件） ※新規のみ掲載 ※企業名・自治体名は不掲載

担当教員	研究題目
理学療法学科 准教授 久保田 章仁	カジオス®の社会実装に関する実証研究（パイロットスタディ）
健康開発学科 教授 村井 美代	吹き付け式殺菌剤下水殺菌効果の検討
健康開発学科 教授 古城 隆雄	[自治体名]国民健康保険第 2 期データヘルス計画（第 4 期特定健康診査等実施計画）における重点予防対象者に関する研究
作業療法学科 助教 小泉 浩平	理美容師の手指疲労軽減のための外用剤の効果検証試験
健康開発学科 准教授 津野 陽子	医療機関における健康経営フレームワークに関する研究
社会福祉子ども学科 准教授 保科 寧子	音楽活動（野外ライブ）の実施が地域の活性化に及ぼす影響
理学療法学科 准教授 村田 健児	老化衛星細胞に着目した抹消感覚神経細胞における「細胞老化」誘導機序に関する研究におけるアガロースゲル・マイクロカプセルの利用
作業療法学科 教授 濱口 豊太	ゴルフにおけるグリップ圧の可視化とスイング指導ツールの開発に関する研究
健康開発学科 教授 有竹 清夏	炭酸ガス入浴が睡眠や生体リズムに与える影響に関する研究
作業療法学科 准教授 小池 祐士	3Dプリンタを活用したオーダーメイド自助具の作製及び効果検証に関する研究
健康開発学科 准教授 津野 陽子	従業員における遠赤外線 of 血行促進作用を施した衣服の生産性への影響
健康開発学科 准教授 岡田 茂治	尿沈渣検査における異型細胞検出アルゴリズムの構築
理学療法学科 (非開示)	(非開示)

◆ 受託研究 計9件（新規契約5件、継続4件） ※新規のみ掲載 ※企業名・自治体名は不掲載

担当教員	研究題目
健康開発学科 教授 北島 義典	[自治体名]市民の健康寿命及び健康格差等実態調査に基づく解析研究
共通教育課 准教授 山田 恵子	「医学系研究をわかりやすく伝える手引き」を用いた科学コミュニケーション手法の研究開発
共通教育課 准教授 山田 恵子	通所介護事業所における間接業務支援システム導入効果に関する研究開発
共通教育課 准教授 山田 恵子	転倒予防に対する歩行分析センサの活用に関する検討
理学療法学科 准教授 国分 貴徳	[自治体名]認定プラチナアスリーの身体機能特性の解析

◆ 産学連携イベントの参加

各種ビジネスマッチングイベントに出展し、研究成果を積極的に発信することで、大学の有する研究シーズの広報に努めた。

- 1) さいしんビジネスフェア 2025（主催：埼玉縣信用金庫）
開催日：2025年6月11日(水)
会場：さいたまスーパーアリーナ
出展者：健康開発学科 准教授 津野 陽子
出展題目：「中小企業の健康経営®をサポートします」

- 2) 大学見本市 2025～イノベーション・ジャパン（主催：科学技術振興機構(JST)）
開催日：2025年8月21日(木)、8月22日(金)
会場：東京ビッグサイト
出展者：大学院保健医療福祉学研究科 大学院研究員 齋藤 剛史
出展題目：「動画解析システムによる脳卒中後の手指運動機能評価」

- 3) 令和7年度 彩の国ビジネスアリーナ（主催：埼玉県、公益財団法人埼玉県産業振興公社他）
開催日：2025年11月18日(火)、11月19日(水)
会場：さいたまスーパーアリーナ
出展題目：「人の機能を見える化 ～健康を増進する新たなサービス・製品へ～」
協力いただいた教員：看護学科 准教授 曾田 みゆき
理学療法学科 准教授 小栢 進也、准教授 木戸 聡史、
助教 久保田 圭祐、助教 中村 高仁
作業療法学科 助教 小泉 浩平

4) 研究シーズマッチング会（主催：公益財団法人埼玉県産業振興公社）

公開日：2025年12月9日(火)～2026年1月5日(月)

公開形式：動画のオンデマンド配信

講演者	テーマ
研究開発センター長 教授 濱口 豊太	大学紹介 ～健康を科学する埼玉県立大学～
健康開発学科 准教授 津野 陽子	健康経営は生産性向上のカギ
看護学科 准教授 澤田 宇多子	働く人のメンタルヘルスを守るCREW
理学療法学科 准教授 須永 康代	ライフステージに応じた働く女性の健康支援
研究開発センター 特任助教 久保田 圭祐	動作解析データで差をつける
理学療法学科 准教授 木戸 聡史	呼吸解析に基づく呼吸トレーニング技術の創出
理学療法学科 助教 中村 高仁	視線から紐解くヒトの行動分析

プロジェクトの活動

2025年度研究開発センタープロジェクト

埼玉県の地域包括ケアシステムの発展・深化及び地域共生社会実現に寄与する地域の諸課題の解決や時代の先端を見据えた実用的・実践的な取り組みとして、継続2件、新規2件の合計4件を実施した。

1. プロジェクト一覧

区分	研究期間	研究代表者	タイトル
2024-1	2024～2026年 (3年間)	地域連携センター 教授 吉田 俊之	軽度に虚弱な高齢者に有効で普及しやすいリエイブルメント・プログラムの開発及び効果検証研究 ―自立生活の再獲得に向けた高齢者本人の自律的な行動を支援するプログラムの効果検討―
2024-2	2024～2026年 (3年間)	理学療法学科 教授 金村 尚彦	変形性膝関節症の病態予測モデルの開発と社会実装に向けた地域支援体制の確立
2025-1	2025～2027年 (3年間)	研究開発センター 特任助教 久保田圭祐	越谷市『通いの場』の多職種間連携評価と介護予防効果の科学的検証
2025-2	2025～2027年 (3年間)	研究開発センター 特任助教 松本 優佳	介護者の業務上疾病予防と安全なケア提供のための機械学習応用型移乗介助技能評価システムの開発

2. プロジェクトによる研究業績【2025年度分のみ掲載】

◆ プロジェクト2024-2：変形性膝関節症の病態予測モデルの開発と社会実装に向けた地域支援体制の確立

- 1) 公表した又は公表予定の論文
日本運動器理学療法学会と投稿準備中

◆ プロジェクト2025-1：越谷市『通いの場』の多職種間連携評価と介護予防効果の科学的検証

- 1) 公表した又は公表予定の論文
 - ① Kubota K et al. Age-Specific Changes in Mental, Physical, Lifestyle, and Motor Function in Older Adults Long-Term Participants in “Kayoinoba” (Community Gathering Places) in a Japanese City: A Cohort Study (投稿中)
 - ② Nasu T, Kubota K et al. Effect of SixMonth Participation in the Community Gathering Place “Kayoinoba” Program ofLife-Space Mobility in Older Adults(投稿中)
 - ③ Shimano Y, Kubota K et al. Risk Factorsof Initial Falls in Community-Dwelling Older Adults (投稿中)
- 2) 公表した又は公表予定の学会発表
第12回日本地域理学療法学会学術大会へ8件の演題発表を実施, 2025.10.11-12

シンポジウム

研究開発センターシンポジウム 2025

1. 趣旨

埼玉県立大学研究開発センターシンポジウムは、2016年度の研究開発センターの開設記念シンポジウムから数えて途中4回のオンデマンド配信を含みながら、本年度で10回目の開催となった。本年度は、本学設立の原点でもある専門職連携・地域連携に資する研究として、保健医療福祉の幅広い分野で地域社会と密接に連携しながら研究成果の地域還元に取り組んでいる、学内プロジェクトを中心に講演を企画した。

2. 概要

テーマ：多様な知の交差点ー大学発の研究と地域連携が紡ぐ共生社会の未来ー

開催日：2026年2月14日（土）13：00～15：45

場 所：埼玉県立大学北棟大講義室 346

参加費：無料

対象者：地域と連携した保健・医療・福祉分野の研究に関心のある方、地域で健康増進・障害予防などの活動に参加している方々、埼玉県内外の研究機関の研究者

共 催：埼玉県立大学保健医療福祉科学学会

後 援：埼玉県、埼玉大学、日本地域包括ケア学会、越谷市リハビリテーション連絡協議会

その他：WebClassによる学内動画配信

3. 広報

埼玉県立大学 研究開発センターシンポジウム2025

多様な知の交差点

ー大学発の研究と地域連携が紡ぐ共生社会の未来ー

2026/2/14(土) 13:00~15:45 開場 12:30

会場：埼玉県立大学 北棟 大講義室346 駅バスカイトツリーライン せんげん台駅よりバス7分

開会のあいさつ 理事長 田中 進

基調講演 「大学の知を結集し、地域と共創する未来」 学長 林 裕 栄

研究開発センタープロジェクト紹介

- 「越谷市『遠い橋』の多職種連携評価と介護予防効果の科学的検証」 研究開発センター 特任助教 久保田 圭祐
- 「介護者の業務上疾病予防と安全なケア提供のための機械学習応用型 移乗介助技能評価システムの開発」 研究開発センター 特任助教 松本 優佳

教育・研究・地域連携の一体的推進事業紹介

- 「地域スポーツ活動の育成年代における障害予防検診の普及プロジェクト」 理学療法学科 准教授 村田 健児

埼玉大学との共同研究紹介

- 「カスタマイズ可能な個人用補助器具を製作するための3Dプリンティングに関する研究」 作業療法学科 准教授 小池 祐士 (埼玉大学研究者：情報工学科 准教授 PUNPONGSANON PARINYA)
- 「保育職を対象としたリカレント教育の内容及び方法に関する実践的検討」 社会福祉子ども学科 准教授 森田 添理子 (埼玉大学研究者：教育学部附属こどものまち発達センター 副センター長 小谷 亞希)

閉会討議 埼玉県福祉部地域包括ケア課 課長 今井 隆元 氏
埼玉県立総合教育センター 指導主事兼所員 水戸副 伸一 氏
埼玉大学IRオフィス 主任URA(特定准教授) 小林 義和 氏
研究開発センター 教授 筒井 孝子 氏

お問合せ先 埼玉県立大学 研究開発センター ☎ 048-973-4383 (平日9:00~16:00) ic: research_center@spu.ac.jp

共催：埼玉県立大学保健医療福祉科学学会
後援：埼玉県、埼玉大学、日本地域包括ケア学会、越谷市リハビリテーション連絡協議会

▼申込はこちら
2/12(木)迄

参加費 無料

4. プログラム

<開会のあいさつ>

理事長 田中 滋

<第一部 基調講演>

「大学の知を結集し、地域と共創する未来」

学長 林 裕栄

<第二部 研究開発センタープロジェクト紹介>

講演1:「越谷市『通いの場』の多職種間連携評価と介護予防効果の科学的検証」

研究開発センター 特任助教 久保田 圭祐

講演2:「介護者の業務上疾病予防と安全なケア提供のための機械学習応用型移乗介助技能

評価システムの開発」

研究開発センター 特任助教 松本 優佳

<第三部 教育・研究・地域連携の一体的推進事業紹介>

「地域スポーツ活動の育成年代における障害予防検診の普及プロジェクト」

理学療法学科 准教授 村田 健児

<第四部 埼玉大学との共同研究紹介>

講演1:「カスタマイズ可能な個人用補助器具を製作するための3Dプリンティングに関する研究」

作業療法学科 准教授 小池 祐士

講演2:「保育職を対象としたリカレント教育の内容及び方法に関する実践的検討」

社会福祉子ども学科 准教授 森田 満理子

<総合討論>

コメンテーター

埼玉県福祉部地域包括ケア課

課長 今井 隆元 氏

埼玉県立総合教育センター

指導主事兼所員 水戸部 伸一 氏

埼玉大学URAオフィス 主任URA (特定准教授) 小林 義和 氏

研究開発センター

教授 筒井 孝子

<閉会のあいさつ>

研究開発センター長 濱口 豊太

5. 実績

参加者(42名:一般の方、保健・医療・福祉分野に携わる方、大学関係者等)が発表に熱心に耳を傾けている様子がかがえた。コメンテーターからは、今回の発表に共通して見られた、現場へのフィードバックを前提とした研究への取り組み姿勢について、高い評価をいただいた。

アンケートより、本学の研究が実装されることを期待する声が多く、「学びになる内容であった」「今後の研究に期待している」等、好意的な意見が多く寄せられた。

本学における研究の意義を周知するとともに、地域社会の未来や共生について学びを深める機会となった。

2025年度 埼玉県立大学研究開発センター活動実績報告書
Saitama Prefectural University Annual Report of the Research and Development Center
2026年3月31日発行

発行 埼玉県立大学研究開発センター
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820
TEL : 048-973-4383
FAX : 048-973-4383
E-mail : Research_c@spu.ac.jp

本文の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となる事がありますのでご注意ください
